

石田英一郎 いしだちやう 文化人類學者。明治二十六年八月(二十日)大阪生れ、昭和四十三年十一月九日歿(一九〇二—六八)。第一高等學校を経て京都市國文學經濟學部入學。大正十五年京都學聯事件に投獄、昭和二年(二・一五事件(共產黨買一齊檢舉))に連坐して九年まご入獄。十二年ウイットン大學に留學して文化人類學を研究。歸國後帝國學士院囑託、十九年蒙古善隣協會張家口西北研究所次長、二十四年法政大學教授、二十六年東京大學教授となり文化人類學教室を開設。のち東北大學教授、埼玉大學教授歴任後、四十二年多摩美術大學學長就任。日本民族學會會長。また第一次東大アンデス學術調査團團長を務めた。

著書『ロ火の鳥(ロシアの昔話)』(昭和二十二年一月)『二十五日影考書院』『世界昔ばなし文庫』、『河童騎引考—比較民族學的研究』(昭和二十二年一月)『二十日筑摩書房』、『一寸法師』(昭和二十二年十一月)『二十日弘文堂』『ヤブエ文庫』、『民族學の基本問題』(昭和二十五年五月十五日北隆館)、『世界の昔ばなし』(關敬吾共編、昭和二十五年七月二十一日河出書房)、『人間を求めて』(昭和四十二年五月二十日角川書店)、『文化人類學入門』(昭和五十一年七月十日講談社「講談社學術文庫」)等の他、全集がある。

